

# 芸術家

うらわ美術館はこの春、開館20周年を迎えます。その節目にあたり、多くの芸術家が集い数々の作品が生まれたこの土地を改めて見つめ直す展覧会を開催します。

いつの頃からか「鎌倉文士に浦和絵描き」という言葉が聞かれるようになりました。大正12年の関東大震災を機に、東京から幾人かの芸術家がさいたま市の浦和地域に移り住んだためとも言われています。なぜ彼らはこの土地を選び、居住地としたのでしょうか。そしてここで何を感じ、どのような作品を生み出したのでしょうか。

本展では各地の美術館や関係機関の所蔵作品と当館収蔵品を交え、芸術家同士の繋がりや様々なエピソード、時代状況等を照らしつつ、この土地に集った芸術家たちの作品やその背景をひも解きます。

過去、現在、そして未来に繋がる地域的・文化的特性、ひいては国内外の同時代の近現代美術を意識しながら、100タイトルを超える作品群を前期と後期の二期に分けて展覧します。

うらわ美術館  
開館20周年記念

## 芸術家たちの住むところ

前期：2020.4/25<sub>[土]</sub>～6/21<sub>[日]</sub> 後期：2020.6/30<sub>[火]</sub>～8/30<sub>[日]</sub>

休館日：月曜日（ただし5月4日、8月10日は開館）5月7日、6月22日～29日、8月11日 開館時間：午前10時から午後5時（金・土は午後8時）まで \*ギャラリーへの入場は閉館の30分前まで  
観覧料：一般830円（660円）、大高生520円（410円）、中学生以下無料 \*（）内は20名以上の団体料金です \*障害者手帳をお持ちの方および付添いの方1名は半額です  
\*観覧済の有料観覧券のご提示により、「リピーター割引」として団体料金でご観覧いただけます（観覧日から1年以内、1名様、1回限り有効） \*前・後期共通割引チケット：大人1200円、大高生700円  
主催：うらわ美術館 企画協力：日動美術財団

美術から、  
この土地に  
また出会う。



高田誠《桐の咲ける風景》  
1933年 うらわ美術館蔵

# たちの

〔出品作家〕 跡見泰、瑛九、奥瀬英三、小沢剛、加藤勝重、金子徳衛、鹿子木孟郎、倉田白羊、小林真二、小松崎邦雄、斎藤三郎、櫻井英嘉、里見明正、重村三雄、杉全直、須田剋太、相馬其一、高田誠、武内鶴之助、田中保、津久井利彰、寺内萬治郎、富本憲吉、内藤四郎、永田二郎、野島康三、林俊衛、林武史、福田尚代、福原霞外、増田三男、安井曾太郎、四方田草炎、渡邊武夫 他（50音順、敬称略）



うらわ美術館  
URAWA ART MUSEUM

### 観覧無料期間

●20周年記念  
4/25<sub>[土]</sub>～5/6<sub>[水・祝]</sub>  
●オリンピック・パラリンピック連携記念  
7/23<sub>[木・祝]</sub>～7/31<sub>[金]</sub>

# 住む

# ところ